

〈幼稚園 表現〉

イメージを表現しながらつくる楽しさを味わえる援助の工夫
—身近な素材を使ったつくる活動を通して—



浦添市立 牧港幼稚園

眞境名 太樹



目次

I	テーマ設定理由	1
II	目指す子ども像	2
III	研究の目標	2
IV	研究仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	領域「表現」について	3
2	幼児と身近な素材の関係	4
3	つくる活動における教師の援助	6
4	素材に親しむ環境構成	8
VII	保育実践	10
1	検証保育の全体計画	10
2	本時までの活動および幼児の姿	11
3	検証保育 実践事例	13
VIII	研究の考察	18
1	作業仮説1の検証	18
2	作業仮説2の検証	19
IX	研究の成果と課題	22
1	成果	22
2	課題	22
	おわりに	22
	主な参考・引用文献	22



イメージを表現しながらつくる楽しさを味わえる援助の工夫

—身近な素材を使ったつくる活動を通して—

浦添市立牧港幼稚園教諭 眞境名 太樹

【要約】

本研究は、幼稚園教育において幼児が様々な素材に触れ親しみながら、イメージを形にできる楽しさを感じることを目指し、環境構成や教師の援助の工夫を試みたものである。

キーワード □つくる活動 □表現 □イメージ □身近な素材 □環境構成の工夫 □応答的

I テーマ設定の理由

近年の社会は情報技術の発達が顕著であり、パソコンや携帯電話を始め、テレビ、ゲーム、玩具等多くのものが溢れている。それは幼児の世界にとっても同様で、様々なものが幼児の環境に入ってくる。それらは、幼児が手に取る段階ですでにでき上がっている完成品が多く、受け身的になりがちであり、イメージは広がりにくい。そのような中、自らが考え、様々な工夫を凝らし、創造性や感性を育むことは難しいように思える。

このような背景のもと、平成 20 年中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」の中で「幼稚園での生活の中で、音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と自分なりの表現を培うことが大切であることから、表現する過程等、表現に関する指導を充実する」と示されている。

また、幼稚園教育要領解説にも「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」とあり「感じること、考えること、イメージを広げること等の経験を重ね、感性と表現する力を養い、創造性を豊かにしていく」と示されている。さらに「自分なりの素材の使い方を見つける体験が創造的な活動の源泉」ともある。

幼児は様々な方法で自分の思いや考えを表現する。それは身体的表現であったり、造形的表現であったり、言葉での表現であったりする。

このような活動を通して、幼児の感性や表現力、創造性が育っていくのである。

では、本学級の幼児はどうであろうか。表現、特につくる活動において、課題のある活動（色を塗る、ハサミで切る等）には取り組むことができる。しかし、自分なりのイメージを持つてつくる活動では、積極的に取り組む子も見られるが、中にはイメージが持てず「これでいいの？」と教師に聞いて来たり「先生、これつくって」等、つくろうとする意欲が低い姿も見られる。また「こうやりたい」というイメージがあっても、形にする段階でどの素材を使えばいいのか迷い、活動が続かない姿も見られる。

私自身のこれまでの保育を振り返ってみると、設定保育等の一斉活動においては工夫を凝らし、幼児が楽しめるような援助を行ってきたものの、幼児が自由につくることのできるような環境構成においては、十分にできていないと思われる。幼児が自らのイメージを形にできず「つくりたい」という意欲があまり持っていない中、「創造性を豊かにする」ためには、まず「創造する楽しさを感じさせる」ことが大切と考える。

そこで、身近な素材と遊び込みながらつくる楽しさを味わえるような工夫を行う。また教師と幼児、幼児同士のかかわりを通して、つくる楽しさを感じ、つくる活動への意欲が高まって欲しいと考え、本テーマを設定した。

II 目指す子ども像

身近な素材に親しみ、その特性を自らのイメージに取り入れ、楽しみながら表現できる子

III 研究の目標

つくる活動において、素材の特性を生かし遊びに取り入れ、イメージを表現する楽しさを感じられるような環境や援助の工夫を図る。

IV 研究仮説

1 基本仮説

素材の提示や配置、教師や幼児同士のかか

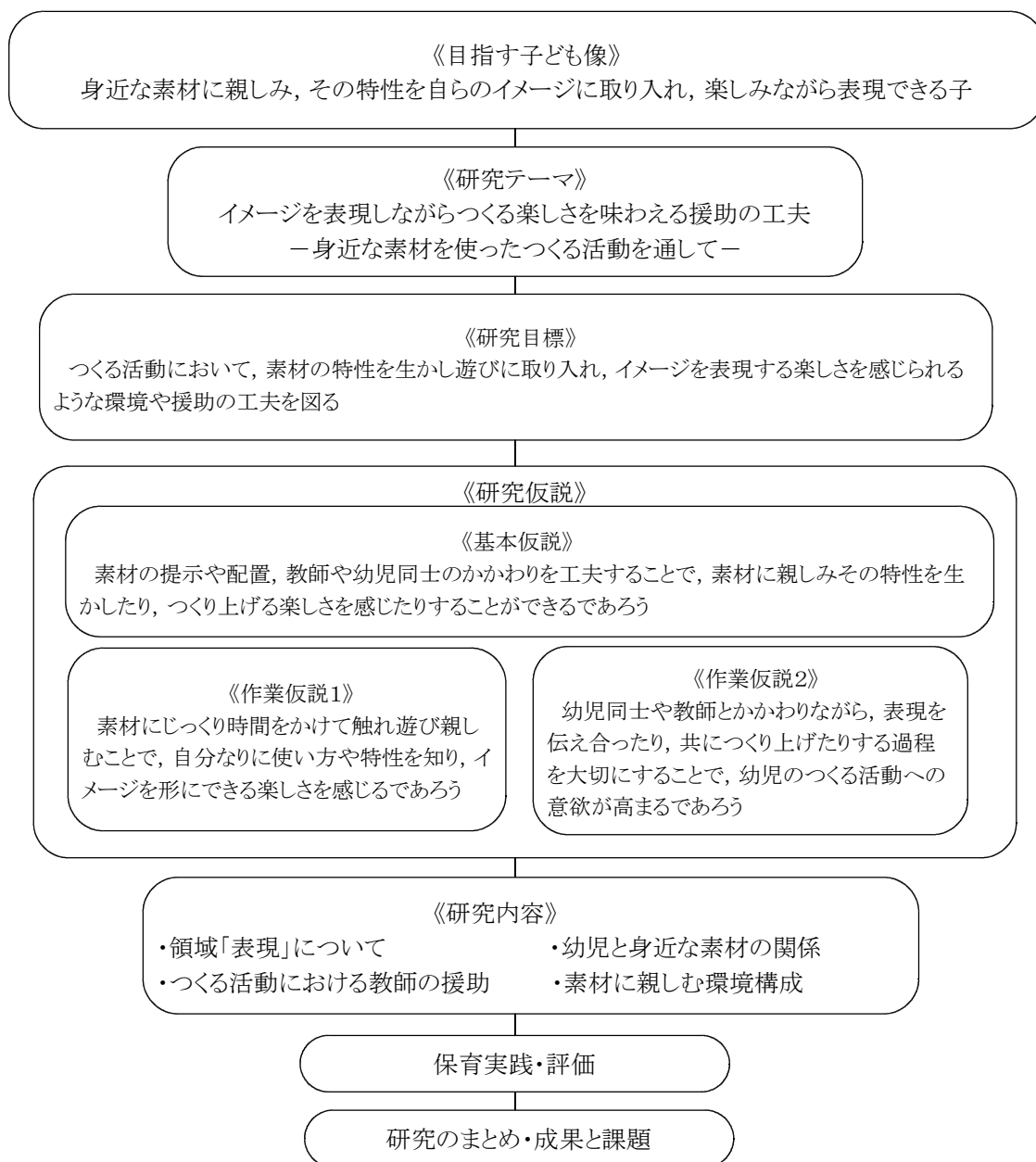
わりを工夫することで、素材に親しみその特性を生かしたり、つくり上げる楽しさを感じたりすることができるであろう。

2 作業仮説

(1) 素材にじっくり時間をかけて触れ遊び親しむことで、自分なりに使い方や特性を知り、イメージを形にできる楽しさを感じるであろう。

(2) 幼児同士や教師とかかわりながら、表現を伝え合ったり、共につくり上げたりする過程を大切にすることで、幼児のつくる活動への意欲が高まるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 領域「表現」について

(1) 「表現」とは

幼児は、毎日の生活の中で様々な環境にかかわりながら、そこでの発見、気づき、感動を表現している。それは身体的表現であったり、造形的表現であったり、言葉での表現であったりする等、多種多様である。それらを通して、「豊かな感性」や「表現する力」「創造性」が育まれていくのである。

では、そもそも幼稚園における「表現」とはどういうことなのか。

「表現」を「表」と「現」の二つに分けて考えてみる。「表」とは「日常の中の意思表示である」とし「現」とは「その日その時の体調や心持ちが微妙に変化していることが内的な変化として現れているもの」と示している。さらに「表」では「幼児に寄り添って聴く耳」、「現」では「内的変化を自分以外の人が感じ取ること」が大切としている。(平田智久等『最新保育講座 11 保育内容「表現」』ミネルヴァ書房¹⁾)

幼稚園指導要領解説には、「自分の気持ちを表すことを楽しんだり、表すことから友達や周囲の事物との関係が生まれることを楽しんでいる」とある。これは前述した「表」にあたる部分であろう。また「幼児は内面に蓄えられた様々な事象や情景を思い浮かべ、それらを新しく組み立てながら、想像の世界を楽しんでいる」とは「現」にあるように内的変化の表出である。

(文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレール館²⁾)

「表現」とは、これら「表」と「現」が繰り返されることであり、幼児と周囲の環境とのかかわり合いの中で起こるものと捉えることができる。

(2) 幼児のつくる活動と豊かな感性

幼児にとって、つくる活動とはどのよ

うなことであろうか。

その活動は、主に二つ考えられる。

一つは、イメージから遊びへの展開である。素材に触れ親しむことで、組み合わせてみたり、線を引いてみたり、何かに見立てたりすることで、次第に自分なりのイメージをもって「こういうものができるかも」とつくる活動に移る。

またもう一つは、遊びを広げたい、もっと楽しみたいという幼児の思いや願いを実現する行為である。

例えば、ヒーローごっこをしているうちに新聞紙を丸めて剣をつくったり、布を持ってきてマントにしたりするように、遊びを広げたい、もっと楽しみたいという幼児の思いや願いから生まれたものである。それは幼児自身の思いや願いを実現する行為であり、色や形の変化や組み合わせを楽しむ行為でもある。

このような幼児の活動は「無」からつくり上げられるものではない。必ず、その元となる体験や感動がある。日々の生活の中で感じたことや疑問に思ったことが根っこにあると考える。このような日々の中での幼児の心の動きは「感じる」という入り口から、考えたり思うことを経て行動するという出口までの一連の行為であり、それが感性であるとしている。¹⁾

入り口の「感じる」とは表現の上で不可欠であろう。「感じる」つまりそのものへの興味関心や好奇心がなにより不可欠である。

「考えたり思うことを経て行動する」とは、例えば、空に浮かぶ雲を見て「雲がお散歩してるよ(文学的)」や「なんで雲って浮いているんだろう(科学的)」や「お空の絵を描きたい(造形的)」等、一つの事象に様々な思考し、それぞれに行動＝表現を行うことである。普段の幼児の姿を見ても、「感じる」だけで終わることはほとんどない。感じ、考え思考し、行動＝表現することが感性と捉える。

では、豊かな感性とはどういうことであらうか。それは、このような「感じ、考え、行動する」ことにより、幼児の内面で起こる内的循環によって

培われていくものとする（図1）。

内的循環とは、「感じ、考え、行動する」という一連の内的変化に、新たな外的要因からの情報、刺激が加わることで、さらに考えを深め行動するという循環である。¹⁾

外的要因とは、教師や友達、自然物や人工物、様々な素材等、幼児の周囲にある環境である。

幼児の表現においてはこの内的循環は非常に大切であり、この循環が上手く作用することによって、幼児の感性が生まれ、「豊かな感性」となっていくと考える。

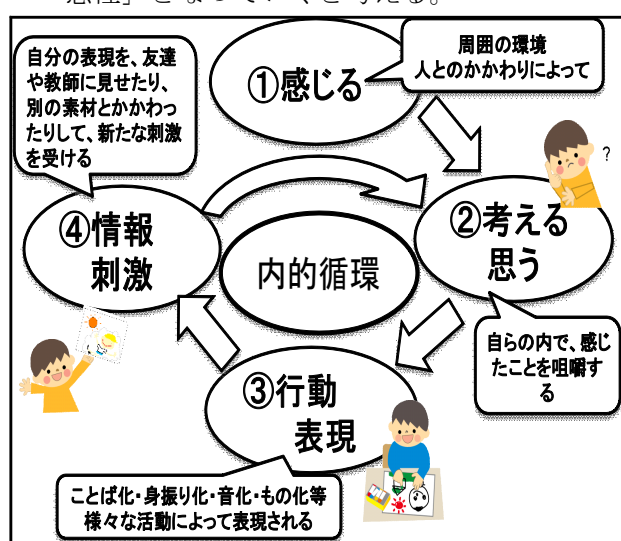


図1 内的循環論

2 幼児と身近な素材の関係

(1) 応答的環境としての素材

造形活動には、ものとしての「素材」が欠かせない。それは砂や水、小枝等の自然物であったり、牛乳パックや空き箱、新聞紙等の人工物であったりと様々である。これらの素材を通して、幼児は自分の思いや考えを表現する。

これら素材は「応答的環境」と言われ、「人の情動、情緒、情操といった心の状況に呼応し、心の安定に貢献してくれる」ものが応答的環境と示されている。¹⁾

自らの心情や直接的な働きかけに応じてくれる環境、言い換えれば自らを「表現」してくれるものが応答的環境であり、それらは応

答性の大小はあれど、「身の回りにあるものすべてが応答的環境」と言えるだろう。

それは素材等の「もの」だけに限らず、人も「応答的環境」と言えるだろう。幼児が表現したことを受け止めたり、さらに一緒に考えたりする教師や保護者、友達もこの「応答的環境」なのである。

この、ものと人の応答性の関係は「素材の持つ応答性が生かされ、同時に人的環境としての保育者の応答的なかかわりがあってこそ、子どもにとって意味のある応答的環境をつくりだすことができる」と示されている。

(小田 豊等『保育内容 環境』北大路出版)

様々な素材の持つ応答性と、身近な人による応答性の二つを兼ね備えることで、幼児の表現への意欲や興味関心が高まっていくと考える。

(2) 身近な素材について

自分の好きな表現方法を見つけるには、素材や表現方法の特性を自分なりに考える経験が必要である。

その過程において大切なことは、様々な素材に親しむことであるとする。本研究では特に「身近な素材」とし、紙類や廃品、ひもや段ボール等の室内での造形活動に使用する素材を示すこととする。

つくる活動において、これら身近な素材と幼児の関係は重要である。素材の特性やその遊び方の例を示してみた（表1）。

一つひとつの素材がどのような特性を持ち、それが遊びにどのようにして使われるのかを事前に教師は研究し、活動の目処を立てておくことで、活動の準備やその後の展開、環境構成の変化にも対応することができるであろう。

しかし、ここで挙げた遊びの他にも、幼児は様々な発想をすることも多々あるので「この素材はこの遊びに使う」という固定観念に捕らわれないよう気をつけて行く必要がある。

表1 身近な素材の特性とその予想される遊び

	素材名	特 性	予 想 さ れ る 遊 び
紙類	画用紙	まっさらな状態なので、紙上にクレヨンや絵の具を使い描くことができ、イメージを表現しやすい。切る、折る、破くなどの表現にも使用できる。紙質も程よく固く立体的な遊びにも使うことができる。	描く →自分の気持ち、体験を表す 折る →財布や鞆など、大きな作品を作る時に用いる。事前に、教師が折り紙のように四角に切っておく援助が必要となる。 切る →ハサミ、手を使って切る。切ったものを装飾に使ったり、何に見えるかを見立てて遊んだり、立体表現に使用したりする。
	色画用紙	色からイメージを発想させやすい。色の組み合わせを楽しむことができる。紙上に絵を描くことができるが、その色合いや色彩の組み合わせには注意を要する。画用紙同様、紙質は程よく固く、立体的な遊びに使える。	描く →自分の気持ち、体験を表す。色の組み合わせを楽しむ。 折る →画用紙同様。 切る →画用紙同様。
	折り紙	紙質は薄く、幼児の手に収まる大きさのものが多く、ちぎるのも容易なため、貼り絵や廃品に貼り付けて飾る等の使い方もできる。	折る →折り紙の本を見て作品を作る。 ちぎる →ちぎり絵を作る。箱類に貼り飾り付けをする。 切る・貼る →輪つなぎ。
	新聞紙	紙質は薄いが大きいので、様々な見立て遊びに使用できる。指先で細く丸めたり、ちぎったりと加工が容易である。さらに丸めることで球状になったり、折り紙の要領で大きな作品を作ったりすることができるなど、多機能な素材と言える。	折る・細く丸める・切る →剣、ステッキ、兜、マント、洋服等を作る。 ちぎる →ピリピリ遊び→水に見立ててプールの遊び等へ。 丸める →ボールを作る→お手玉、玉入れ。
容器類	空き箱	立体表現に導くことができる身近な素材。組み合わせたり、積み上げたりすることで、いろいろなものに見立てることができる。また、様々な素材と組み合わせる遊びが多い。 基本的にはカッターやハサミ等での加工が行われるが、幼児には難しいので、そのままの形状を利用するのが好ましい。厚手の箱でなければハサミを用いることもできる。	積み上げる →どこまで積み上がるかのゲーム遊び等。 つなげる・貼り合わせる →立体的な作品へ(ロボット等)他の材料との組み合わせを楽しむ。 入れる →大事なものをを入れる宝箱やびっくり箱等。
	牛乳パック	大きさや形の規格がほぼ同じなため、並べたり、つなげたりすることができる。また、中に新聞紙を入れてると強度が増し、乗ることもできる。水に強いので、中に水を入れたり、水に浮かべたりすることができる。空き箱同様、他の素材と組み合わせることも容易である。	並べる →壁、窓等の仕切り つなげる・貼り合わせる →立体的な作品へ。他の材料との組み合わせを楽しむ。 手にはめる →ロボット等になりきり遊ぶ。 入れる →虫かご、宝物入れ、水を運ぶ、種にする。 浮かべる →いかだ作り。
	ペットボトル	大きさや形はまちまちだが、透明性を持つ。入れる、叩いて音を出す等の遊びに使われることが多い。空き箱や牛乳パック等の他の素材と組み合わせると立体表現に用いられることも多い。	つなげる・貼り合わせる →立体的な作品へ。他の材料との組み合わせを楽しむ。 入れる →水、砂、虫等の自然物を入れる。 音を出す →ボトル同士、また他の材料をたたき合わせたり、ボトルの口に息を当て音を出したり等の楽器遊び。
	スチロールトレイ	大きさ、色は様々。水に浮く、油性マーカーを使い絵を描くこともできる。ハサミや手で切ったりちぎったりすることも容易で、扱いやすい。	切る →ハサミで加工する。切ったものを水に浮かべ魚釣り遊び等へ発展できる。 ちぎる →手を使い細かくちぎる。雪、波、雲などの表現に用いられる。
	段ボール	水には弱い、その性質は固い。加工には段ボールカッター等の用具を必要とする為、用具の指導や安全面には注意が必要である。大きいものでは幼児の身長以上もある、中に入ったり、くぐったりとダイナミックな遊びが展開される。	入る →お家ごっこや基地ごっこ等で遊ぶ。側面に穴を空け窓を作ったり、マーカーで描いたりして装飾する楽しさを感じられる。 つなげる →壁、迷路、お花け屋敷等。
	ビニール紐	幼児が手軽に扱える紐状素材の一つ。ハサミで切るのも容易であり、その後の結び、編み込む、穴に通す等、幼児にとって日常生活にも繋がる行為が多く、活用していきたい素材である。自由に使わせる場合は、必要な分を考えさせながら使わせるよう指導が必要である。	切る →ハサミで切る。使う長さ等の指導が必要。 結ぶ →様々な材料に結び表現する。空間を仕切る。釣竿等の吊すものとして用いる。 編み込む →三つ編みを作る。すぐにビニール紐では難しいので、導入では毛糸を用いることもある。
紐類	毛糸	羊毛を編み込んで作られている紐。細いものから太いもの、色も多形で、様々なイメージがわかりやすい。手触りもよく幼児に安心感を与える働きもあるだろう。	見立てる →スパゲティやラーメンの麺、動物の毛等、その柔らかい特性と色の多様さから、様々なものに見立てやすい。 結ぶ →様々な材料に結び表現する。ビニール紐と違い、柔らかい特性があるので、ネックレス等、肌に触れる作品に用いると良い。 編み込む →三つ編みの導入として、太いものが良い。マフラー等の生活用品を作る。
	モール	金糸・銀糸・色糸・金属箔等を絡ませた装飾用の紐状素材で、中に針金が入っている。くくったり、短く切って突き刺したり等、加工がしやすく幼児でも手軽に扱える。	くくる →モール同士をくくったり、他の材料と組み合わせながら表現する。 穴に通す →ビーズ等に通し、指輪、プレスレット等を作る。 突き刺す →粘土や箱等に突き刺し、装飾として用いる。
	アルミホイル	金属製の性質を持つが、加工は容易である。その性質から光の反射を楽しむ、装飾に使用する遊びが予想される。また、ねじったり丸めたりすることで、形が変わり固くなり、立体的な表現にも用いることができる。	切る・破る →ハサミ、手等で加工。切ったものを貼り合わせたり、他の素材に貼って装飾したりして遊べる。 ねじる・丸める →立体表現で遊ぶ。丸めてボールにする、ねじって釣竿の針にする等。慣れると動物の形や人の形等を表すこともできる。
日用品	スポンジ	柔らかい特性を持ち、加工が容易。握ったり潰したりしても、形が元に戻る弾性を持つ。	切る →ハサミ等で切る。切ったものを組み合わせて積み上げたり、ケーキの土台としてごっこ遊びに使ったりすることができる。
	トイレットペーパー芯	紙製で、ハサミやカッターで加工できる。家庭で常に排出されるので数が確保しやすく、幼児にとって特に身近な材料であろう。側面から切る時は、ハサミの刃が滑りやすいので注意する。場合によっては教師が切っても良いだろう。	つなぐ・組み合わせる →他の材料と組み合わせ、立体表現に用いる。ロボットの腕や足、剣や杖等。 のぞく →双眼鏡、拳銃の照準等。
	輪ゴム	幼児に好まれる素材の一つ。伸ばしても元に戻る弾性を持つが、ある程度まで伸びると切れる。弾性の特性を生かし、つなげる、引っ張る、くくりつける等の遊びができる。また、あやとりのように遊ぶこともできる。	つなげる →輪ゴム同士をつなげる。お面やヨーヨー等。 引っ張る →引っ張って飛ばす。ゴム鉄砲の弾、指で飛ばす等。 くくりつける →棒と棒等をくくりつけ、固定する。ゴム鉄砲、マジックハンド等。

3 つくる活動における教師の援助

(1) 教師の役割

幼稚園教育において、園生活全般における教師の主な役割として、表2のような4つの役割が挙げられる。²⁾

表2 幼稚園教育における教師の役割

- 幼児が行っている活動の理解者
- 幼児との共同作業者、幼児と共鳴する者
- 憧れを形成するモデル
- 遊びが深まっていかなかったり、課題を抱えたりしている時の援助

このような役割が教師にはあり、これらを行っていくことによって幼児との信頼関係が築かれたり、心のよりどころとなったりする。これらの行動は、幼稚園での安定感につながり、主体的な活動の基礎となるであろう。

では、つくる活動における教師の役割としては具体的にどのようなものがあるだろうか。前述した役割と関連して考えていく。

① 幼児のつくる活動の理解者

幼児の内面を理解し、気持ちに寄り添おうとする教師の姿勢はとても大切であろう。それは「人によって違うことが表現」であり「自分なりに表現することが基本」とされ、「そのため、答えが一つではないことが前提」であるからだ。¹⁾

また、幼児の「表そうするその勢いやその底にある身近な材料の特性と予想される遊びを捉え、共感することが、幼児の表現を伸ばす」こととある。(無藤 隆等『ここが変わった！ New 幼稚園教育要領・保育所保育指針ガイドブック』フレーベル館)

教師は幼児が考えたこと、感動したこと＝イメージに共感し、その過程における意欲を引き出していく。なにより表現したこと自体を認めることを心がけねばならないと考える。

共感し認める上で大切なこととして、教師の応答的なコミュニケーションを心がけ

たい。教師は幼児の作品や活動に「すごい！」という言葉を使うことが多々ある。認める気持ちはあるものの、深くかかわれているかは疑問である。教師からの一方的な言葉で終わっていないだろうか。

幼児の表現を受け止め、それに対して教師が応答し、さらにイメージや思いが生まれることがある。ただ「すごい！」で終わるのではなく幼児からさらに考えや言葉を引き出すような「一往復半」の声かけが望まれる(図2)。

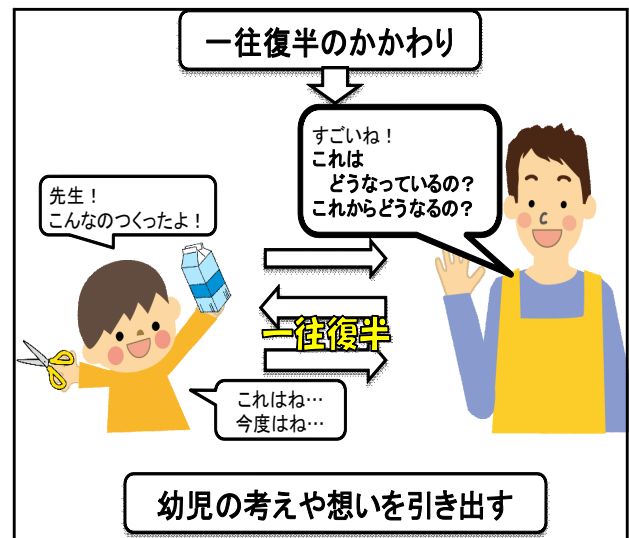


図2 「一往復半のかかわり」モデル

② 共同作業者、共鳴する者

幼児は、自分で工夫し考えながらつくる活動を楽しむこともあれば、教師と共につくりたいと思うこともある。そのような願いには、寄り添っていききたいものである。幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線に立って見つめたり、共に同じものに向かってみたり等である。このような教師の行動により、気持ちが満たされることで、さらに活動に集中するようになるだろう。また教師も、幼児の心の動きや行動の意味を理解し、より援助がしやすくなるであろう。

この時、教師は、常に全体にも視線を配り把握しておく必要がある。幼児の個性は様々であり、「一緒にやろう!」と自ら積極的に声をかける子もいれば、「一緒にやりたいけど…」とってはいるものの、なかなか言葉として出せ

ない子もいる。しかし、言葉でなくとも、表情や行動等に何らかのサインを出しているであろう。そのサインを見逃さずに感じ取れるよう、心がける必要がある。

③ 憧れを形成するモデル

幼稚園生活において、幼児は教師の行っていることに興味津々である。教師の行動を見て「先生みたいにやってみたい!」という気持ちが芽生えるのは園生活の日常でもよく見られる。そしてこれは、つくる活動においても同様である。このように教師がモデルとして見せる援助は、幼児と事物との新たな出会いや、幼児自身が工夫して遊ぶきっかけともなる。

つくる活動においては、教師はどのようなモデルを見せるのかを十分に考慮しなければならないだろう。それは見本を見せることなのか、作り方を見せることなのか、または一緒につくることなのか。その時の状況により判断しなければならない。

教師は、自らの言動が幼児の活動に大きな影響を与えると言うことを十分に認識し、主体的な発想や創意工夫を引き出せるようなモデルの示し方を行う必要がある。

④ 遊びが深まらなかったり、課題を抱えたりしている時の援助者

幼児が活動を進める上で困った時、教師が援助者としてかかわることがある。その後の展開を導いてあげたり、道具を準備したり等、その時の状況によってどのような援助が必要かは変わってくる。

大事なことは「いつ援助するのか」「どこまで援助するのか」の二点であろう。

幼児が困っているからといって、教師がすぐに援助すると、主体性や考える時間が失われる恐れがある。逆に考えさせようとして援助せずにいると、活動が行き詰まってしまうこともあるだろう。

ヒントだけ出して考えさせる、一度やり方を見せて促す等、幼児の自立心や自主性を持たせるような援助が好ましい。このバランスやタイ

ミングは、一人ひとりの幼児において異なることを念頭において行っていきたい。

さらに、道具についても考えてみる。幼児はつくる活動において、様々な道具に興味関心を持ち使おうとする。しかし、その道具がうまく使えなければ、自らのイメージを表現できず、意欲も失われてしまうだろう。道具の使用における教育的側面として以下のようなことが挙げられる。(花篤 實等『幼児造形教育の基礎知識』建帛社)

ア 幼児に必要なと感じさせ、幼児の意思で用具を求めさせて、選ばせ、使い方を工夫させること。

イ 用具の有用性と用具の正しい使い方、造形上の技法を積極的に指導するとしている。

この技術指導を通して、道具の正しい使い方を知ることは、つくる活動への意欲へと繋がっていくだろう。

⑤ 環境を構成する

幼稚園は環境を通した教育である。教師による直接的な指導ではなく、幼児を取り巻く環境を構成し、好奇心や探究心を育てていくのである。²⁾

つくる活動においても同様であり、表現を楽しめる環境を構成することが、非常に重要なことである。

一つ目に、空間と時間の確保が考えられる。適切な場所や、ゆったりとした時間があるからこそ、自らのイメージの世界に没頭できる。そのためにも、動線に配慮した素材・道具の提示や配置、また行事等との兼ね合いを十分に吟味し、幼児が没頭できる空間と時間を作る必要がある。

二つ目に豊富な素材である。例えば、「ロボットをつくりたい!」という幼児がいても、そこに空き箱等の素材がなければ没頭することは難しい。そのような素材を準備し、イメージを自分なりに表現できる環境を整えることが必要と考える。

しかし、それは好き勝手に遊ばせたり、ただ素材や道具の種類を増やしたりというわけではないということにも注意しなければならないだろう。今何を欲しているのか、何に興味関心を持っているのかを考えながら環境を構成していくことが大切である。

(2) 友達とのかかわりの中での援助

幼稚園生活においては教師同様、もしくはそれ以上に幼児に影響を与えるのが友達の存在である。その存在は大きく、園生活の様々な面で影響を与える。

以下に、友達を通したつくる活動への援助を考えてみた。

① モデル・目標として

友達の表現は、幼児自身にとって大きな刺激となる。友達の活動を見て引き込まれたり、同じものを持ったり、同じものをつくったりと、互いに影響し合って遊びを生み出す。その過程の中で、それぞれの表現が生まれてくると考える。

教師はそのように相互に影響を与え合うよう、幼児の表現を周りに知らせたり、できあがった作品を掲示したりして、刺激を与えるような援助をしていく。

特につくる活動を苦手とする幼児には、友達の作品を参考にすることを促すことも有効な手だての一つと考える。

② 協同者として

5歳児になると友達への意識が高まり、個々のイメージを基にして、共につくり上げる活動に発展することがある。その中で友達の意見を聞き、時に衝突しながらも互いの思いを理解できた時「一緒につくるのは楽しい」と感じられるだろう。その気持ちはつくる意欲に繋がっていくと考える。

教師はそのような幼児の心情の理解に努め、イメージを伝える時に言葉が足りなければ補足して伝えたり、橋渡しをしたりする役割がある。

4 素材に親しむ環境構成

(1) 遊び込むこと

活動の中で、教師から「こうするんだよ」や「こうしたら良いよ」という言葉が出ることもある。「上手くつくって欲しい」「いろいろなやり方を知って欲しい」という教師の思いとは裏腹に、幼児の表現の幅を狭める行為にもなりかねない。勿論、このような援助が必要な場面もあるが、そのタイミングには十分に注意していきたい。

造形表現は「のびのびと自由に表現できる喜び、そして作品やその過程に自己を投影させることのできる楽しさ」を感じなければならぬと考える。そのためにも、素材と遊び込むことは貴重な時間ではないだろうか。一つひとつの素材にじっくりかかわり、その素材の特性やイメージを自分なりに見つけることが、その後の作品づくりや遊びに活かされていくと思われる。

(2) 環境構成の工夫

以下に、つくる活動における環境構成の工夫を示す。

① 視覚的構成

視覚的情報は、言葉での情報に比べ理解ししやすい。素材入れに素材のイラストを貼ったり、種類別に素材入れを色分けしたりする等、視覚的教材を作成し、遊ぶ上で自分の使いたい素材を見つけるための指標とする。

また、道具の使い方についてもICTを使用した教材を作成し、適切に道具が使えるよう指導していく。

② 動線に配慮した構成

無造作に素材や道具を配置しては、混乱したり、煩雑になって十分に遊べなかったりすることが予想される。普段の幼児の様子を観察し、どこに何を置くのか、その時の動きを十分に考えながら構成する。特に、それぞれの遊びが充実できるよう、室内の使い方を十分に考えていく。

また、幼児の様子を見ながら遊びの広がりや事前に予想し、環境を変えていくことも重要である。

③ 遊びが広がるような構成

幼児にとって、つくる活動自体で満足することもあれば、つくったものを遊びのツールとして用いることも多々ある。そのために、つくったものを使って遊びが展開できるような環境を

構成する。

大型積み木を準備しておけば基地ごっこやお店屋さんごっこ、劇遊びの舞台にして遊ぶ等が予想できる。

つくったものを遊びのツールとして使っている内に、「あれもつくろう」という気持ちが芽生え、さらにつくる活動への意欲が高まると考える（表3）。

表3 環境構成の工夫について

	教育的効果	具体策
視覚的構成	★視覚的情報は、幼児が理解しやすい。見てすぐに適切な素材が選べるような、視覚的構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・素材入れに素材のイラストを貼り、何が入っているかが一目で分かるようにする。 ・紙類、容器類、紐類、日用品類等の素材を入れる箱を色別に分け、幼児が材料を選ぶ上での目安になるようにする。 ・道具の使い方をICT教材を作成し指導する。  <p>素材を種類別に色分けをして表示。 素材の絵や名前も明記する。</p>
動線に配慮した構成	★どこに何を置くか、どう動くかを、観察から予想し、室内環境を遊びやすいように構成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の幼児の様子を観察し、室内をどう使えば良いか、幼児の発達や興味関心、遊びの様子に合わせて変化させていく。 ・道具の配置、素材の配置、作業する場所等の位置を、幼児が動きやすいよう配慮する。  <p>それぞれの場所で遊び込めるよう、ダイナミックに遊べる場所、じっくり座って取り組むところと室内の使い方の工夫。</p>
遊びが広がるような構成	★作ったものを遊びのツールとして用い、さらに遊びが広がっていくような環境の構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・大型積み木、牛乳パックを使用した人形劇舞台などの遊びが広がる環境を作る。 ・作品を提示するコーナーを設け、工夫や頑張ったところ等を紹介し、他児への刺激になるような環境を作る。  <p>つくったものを遊びのツールとして遊び込める環境。</p>

Ⅶ 保育実践

1 検証保育の全体計画

検証保育の実践にあたり、下記のような全体計画を立てた（表4）。 対象：5歳児

表4 検証保育計画表

実践	日程	題 材 名	ね ら い	活 動 内 容
1	10/30 (水)	アンケート調査	・ 幼児の実態、家庭の実態を調査し、保育実践の指標とする。	☆ 幼児への聞き取り調査。 ☆ 家庭へのアンケート調査。
2	11/22 (金)	何に見えるかなあ？	・ 正しい道具の使い方を知り、道具を使う楽しさを感じる。	☆ I C Tを用いた紙芝居を通して、道具の正しい使い方を指導する。 ☆ 動物園に行った経験を基に、想像しながら切ったり貼ったりする。
3 P11 参照	12/12 (木)	身近な素材と遊ぼう①	・ 身近な素材の感触や特性に触れて遊ぶ。	☆ 様々な素材に触れ、それらの特性や使い方を自分なりに見つける。
4 P12 参照	12/17 (火)	身近な素材と遊ぼう②	・ 感触や特性に触れ、素材に親しむ。	☆ 素材の感触や特性を楽しみながら、遊びの中に取り入れる。
5 P13 参照	12/19 (木) 検証保育	身近な素材と遊ぼう③	・ 感触や特性に触れ、素材に親しむ中で、つくる意欲を高める。	☆ 素材の感触や特性に触れ、イメージしながら遊ぶ。 ☆ 友達作品に興味を持ち、模倣したり、一緒につくったりしながら、つくる活動を楽しむ。
6	1/7 (火)	身近な素材と遊ぼう④	・ 素材に親しむ中で、イメージを形にしてつくる楽しさを味わう。	☆ 素材の特性や使い方に気づき、イメージを持ちながら遊ぶ。 ☆ 友達と一緒につくる楽しさを感じながら遊ぶ。
7 P17 参照	1/9 (木)	お店屋さんで遊ぼう①	・ 友達と一緒にイメージを形にする楽しさを味わう。	☆ 様々な素材を使って、自分たちのイメージした商品をつくる。 ☆ 友達と一緒に工夫しながら、お店屋さんごっこを楽しむ。
8 P17 参照	1/16 (木)	お店屋さんで遊ぼう②	・ 友達と一緒に作りながら、お店さんのやりとりを楽しむ。	☆ 友達とのやりとりの中で新たに必要なものに気づかせ、さらに「つくろう」という気持ちが高まるようにする。
9 P17 参照	1/17 (金)	お店屋さんで遊ぼう③	・ お店さんのやりとりを楽しんだり、友達の作品の良いところを感じたりする。	☆ お店屋さんごっこで遊ぶ。 ☆ 友達の作品の良いところを感じ自分の商品にも生かそうという気持ちが持てるよう、それぞれの商品を教師が紹介する。
10	1/17 (金)	アンケート調査	・ 幼児、家庭への調査を基に、その変容や課題について考察する。	☆ 幼児への聞き取り調査。 ☆ 家庭へのアンケート調査。 ☆ 事前のアンケートと比較し、検証を行う。

2 本時までの活動および幼児の姿

まず、身近な素材に親しみ、その感触や特徴に触れながら遊び込む活動を行った。準備した身近な素材は以下のとおりである（表5）。

表5 使用する身近な素材

容器類	空き箱 トレイ	牛乳パック ヤクルト容器	ペットボトル	ペットボトルのフタ	ゼリーカップ
紙類	画用紙	色画用紙	新聞紙・チラシ	折り紙	段ボール
紐類	ビニール紐	毛糸	モール	たこ糸	
日用品類	トイレットペーパー芯 スポンジ	ストロー 綿	割り箸 ビーズ	竹串 布	アルミホイル 輪ゴム

【実践3】 12月12日（木） 活動名「身近な素材と遊ぼう ①」

【活動内容】	<p>【□環境構成 ☆教師の援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 素材が煩雑にならないよう、種類別に入れる箱を色分けし、幼児が視覚的に判断しやすいよう構成する。 □ 動線に配慮し、素材の前はスペースを取る等、動きやすい環境を確保する。 ☆ 新しい素材があることを紹介し、興味関心を引き出す。 ☆ 教師が率先して素材とかかわり、幼児が多く素材に興味を持てるようにする。 ☆ 道具の使い方や持ち方には十分に注意する。 ☆ 活動が止まっている子には、教師が寄り添い、一緒につくるのを提案したり、友達の活動に目を向けさせたりと、活動への意欲を持たせるようにする。 ☆ 「何かをつくる」ことを目的とせず、素材とかかわることを目的とする声かけ（「綿ってフワフワして気持ちいいね」「ビーズってキラキラして綺麗だね」等）を行う。
--------	---

【幼児の様子】



スポンジと綿を組み合わせて「せっけんブクブクみたいだよ」

ペットボトルに一つひとつのフタが合うか試している様子。全てのペットボトルにフタが合った時は満足げな表情に。



ラップの芯の穴とボトルのフタが同じくらいの大きさなことに気づき、穴に落とすととゆっくりと落ちていく。「エレベーターみたい！」何度も落として楽しんでいる。



綿の感触をテーブルいっぱいに広げて楽しんでいる。次第に、割り箸を持ってきてグルグルとかき混ぜ始めた。



割り箸に綿を巻いて「綿飴づくり」が始まる。トレイを持ってきて、綿を入れ「かき氷」にもなった。徐々にレストラン遊びに発展していく。



他の子がマーカーで綿に色が付くことを発見！「どうやったの」「あのね…」自分の発見を、他児に教えている姿も。


【◎本時の反省 ◇次回へのつなぎ】

- ◎ 様々な素材を準備したことで、幼児の興味関心が高まった。まずは素材に触れ、その感触や質感を味わうことで、徐々に「こういうのができるかも」というイメージを持って欲しい。
- ◇ 活動後、どんな素材があったか、どんな感触だったか、どんな遊びができそうかを幼児と一緒に考え、次の活動時に「こんなことをしてみたい」という思いを引き出すようにする。
また、幼児が素材について発見したことや気づいたことを取り上げ「こんな遊び方があるんだね!」と様々な素材に興味関心が持てるようにする。


【実践4】12月17日（水）活動名「身近な素材と遊ぼう②」

<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材と親しみながら遊ぶ ・素材を使いながら、イメージを持つ 	<p>【□環境構成 ☆教師の援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 新たな素材として段ボールを準備し、幼児の遊びが広がるようにする。 □ 前時からの素材も配置しつつ、段ボールの場所を広めに取り、それぞれの素材で遊び込めるような環境にする。 □ 新たな道具として「段ボールカッター」を準備する。使い方や注意等は活動前に行う。 ☆ 教師がモデルとなり、素材同士の組み合わせを見せることで、幼児の発想を深めることができるようにする。 ☆ 幼児の発想を認め、さらにそれがどんな遊びに使えるかを一緒に考えたり、提案したりして、遊びがさらに広がるようにする。 ☆ 段ボールを使ってのお家ごっこが予想されるので、幼児がつくりながらも、それ自体を使って遊ぶことにも興味を持たせるようにする。
--	--

【幼児の姿】




つくる活動に興味関心を示さなかったR男も、様々な素材に触れ、徐々に関心が高まってきた。




倒れる段ボールを押さえようと、ペットボトルに水を入れて支えにすることを思いつく。




様々な素材を使いながら、自分のイメージを表現しようと一生懸命な姿が見られる。



大きい段ボールは、窓やドアを開け、お家ごっこへと遊びが広がる。



さらに中で綿やアルミを使って、お団子やお菓子を作りお店屋さんごっこへ。



【◎本時の反省 ◇次回へのつなぎ】

- ◎ 新たな素材としての段ボールを出したことで、お家ごっこが始まった。前回からの素材と段ボールを組み合わせながら、つくる活動が活発になってきた。
- ◇ つくった作品をみんなの前で発表する場を設け、できあがったものをみんなの前で認めることで、幼児の自信につなげたり、また他児へ刺激としたりするようにする。

3 検証保育 実践事例

保育指導案 (幼稚園教育)

平成 25 年度 12 月 19 日 (木) 10:30 ~ 11:30

たんぽぽ組 男児 9 名 女児 11 名 計 20 名

教諭 眞境名 太樹

(1) 題材名 『身近な素材と遊ぼう』

(2) ねらい

- ① 素材に触れ自分なりのイメージを持って、つくる楽しさを味わう
- ② 友達や教師と一緒につくることを楽しむ

(3) 題材について

① 学級の幼児の姿

5 歳児 19 名と特別支援 1 名の統合学級である。活発に遊び、仲間意識も強く、室内でも戸外でも友達と誘い合って遊ぶ姿が見られる。

造形活動の場面においては、設定保育の製作等の時間は集中して取り組んでいる姿が見られる。つくる活動においても、課題のある活動（色を塗る、ハサミで切る、折り紙等）には取り組むことができる。

自分なりのイメージを持ってつくる活動に積極的に取り組む子も見られるが、中にはイメージが持てず「これでいいの？」と教師に聞いて来たり、「先生、これつくって」等自分でつくり上げようとする意欲が見られない姿もある。また、「こうやりたい」というイメージを持っていても、それを形にする段階でどの素材を使えばいいのか迷い活動が続かない姿も見られ、課題となっている。

② 題材として取り上げた理由

保育室には製作コーナーを設置しているものの、ほぼ決まった子が遊んでいる現状が見られる。全体的にハサミやノリの使い方は上手になっているが、自由につくる活動に興味を持っていない幼児も多い。

今回、つくる活動の環境構成を工夫し、幼児が身近な素材に触れ、遊び込む経験をすることで、つくる活動の楽しさや、自分なりに表現することの楽しさが味わえるのではないかと考えた。さらに、友達の活動や作品にも意識を持たせたり、一緒に活動することは楽しいと感じたりするような援助を行うことで、つくる意欲が高まり、より活動が発展していくのではないかと考え題材として取り上げた。

(4) 仮説

- ① 様々な素材に触れ親しむことで、自分なりのイメージを持ってつくる楽しさを味わうことができるであろう。
- ② 教師や友達と共に活動し、その遊びを取り入れたり、一緒につくったりする活動の中で、つくる意欲が高まるであろう。

(5) 本時の保育

① 本時の活動

「身近な素材と遊ぼう ③」

② 本時のねらい

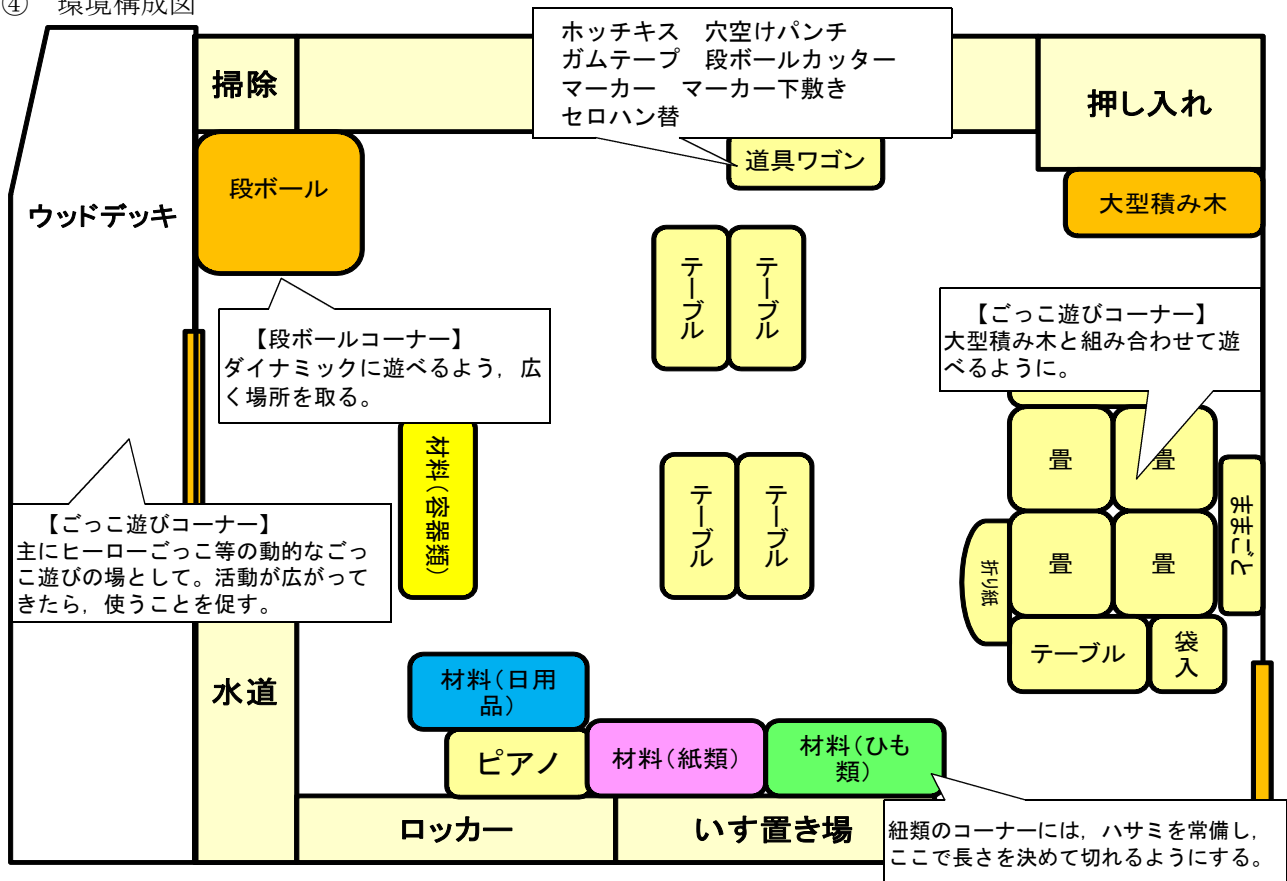
- ・素材に親しみながら、自分なりのイメージを持ってつくる楽しさを味わう
- ・友達と一緒につくる楽しさを味わう

③ 活動の流れ

時間	活動の流れ	☆教師の援助 □環境構成								
10:30	<p>○保育室に集まる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び等をして、全員が集まるのを待つ <p>○今日の活動内容や約束を聞き、準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の使いたい道具や素材を準備する 	<p>□幼児が集まる前に、室内環境を構成し、遊びがすぐに始められるようにする。</p> <p>☆排泄や水分補給等を済ませ、幼児が集中してその後の活動に取り組めるよう配慮する。</p> <p>☆幼児がしっかり聞けるよう「おへそもお顔も先生に向けてね」と具体的に声かけを行う。</p> <p>☆今日の活動を確認する。活動の最後に、みんなの前で発表したい人は、発表できることを伝える。</p>								
		<p>約束</p> <p>① 道具の使い方に気をつけよう（紙芝居を思い出させる）</p> <p>② 使った道具は片付けてから、次の遊びに移ろう</p>								
10:35	<p>○自分の好きな活動に取り組む</p>									
	<p>【道具】</p> <p>幼児：ハサミ、ノリ</p> <p>保育室に設置：セロハンテープ、ガムテープ、ボンド、ホッチキス</p> <p>穴空けパンチ、段ボールカッター、マーカー、マーカーの下敷き</p>									
	<p>使用する素材</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>容器類</td> <td>空き箱 牛乳パック ペットボトル ペットボトルのフタ ゼリーカップ トレイ ヤクルト容器</td> </tr> <tr> <td>紙類</td> <td>画用紙 色画用紙 新聞紙・チラシ 折り紙 段ボール</td> </tr> <tr> <td>紐類</td> <td>ビニール紐 毛糸 モール たこ糸</td> </tr> <tr> <td>日用品類</td> <td>トイレットペーパー芯 ストロー 割り箸 竹串 アルミホイル 輪ゴム スポンジ 綿 ビーズ 布</td> </tr> </tbody> </table>	容器類	空き箱 牛乳パック ペットボトル ペットボトルのフタ ゼリーカップ トレイ ヤクルト容器	紙類	画用紙 色画用紙 新聞紙・チラシ 折り紙 段ボール	紐類	ビニール紐 毛糸 モール たこ糸	日用品類	トイレットペーパー芯 ストロー 割り箸 竹串 アルミホイル 輪ゴム スポンジ 綿 ビーズ 布	
容器類	空き箱 牛乳パック ペットボトル ペットボトルのフタ ゼリーカップ トレイ ヤクルト容器									
紙類	画用紙 色画用紙 新聞紙・チラシ 折り紙 段ボール									
紐類	ビニール紐 毛糸 モール たこ糸									
日用品類	トイレットペーパー芯 ストロー 割り箸 竹串 アルミホイル 輪ゴム スポンジ 綿 ビーズ 布									
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材を使って、つくる活動に取り組む。 ・段ボールを使って、ダイナミックな製作に取り組む。 	<p>□幼児が素材を選びやすいよう整理し、思いついたことがすぐに実現できるような環境を構成する。</p> <p>□つくるコーナー、ごっこ遊びのコーナー、段ボールのコーナー等、表現したいことに合わせたコーナーを構成し、それぞれの活動が遊び込めるよう配慮する。</p>								

	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とイメージを分かち合ったり，一緒につくったりする。 ・つくったものを使って，友達とごっこ遊びを楽しむ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな素材にかかわり，遊びながらつくりたいものをイメージしていく。 ・友達と一緒に作る中で「こうしたらいい」と提案したり，友達の案を聞いたりしながら，共につくり上げようとしていく。 ・なかなか活動に興味を示さず，どうしたらよいか分からない子がいる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ☆作品をつくることを目的とするのではなく，素材に触れ親しむことで，徐々にイメージがわき出てくるような援助を行う。 ☆つくっている活動やその作品を認め，満足感を得ながら活動できるように配慮する。 ☆幼児の思いや考えを聞き，さらにアイディアやイメージを広げることができるよう，応答的な声かけを行う。 例：「すごいね，これはどうなっているの？」 「これからどうするの？」 幼児からさらに言葉が返ってくるような声かけ。 ☆安全に活動できるよう，道具の使い方に注意を促す。 ☆援助を要する子には寄り添いながら，一つの素材を使って遊び，そこからイメージを引き出すようにする。幼児の思いを大切にするためにも，教師から「これをつくろう」という提案をあまりしないよう気をつける。 ☆援助を要する子を友達の輪に入れ，一緒につくる中から自分なりのイメージを持てるようにする。 ☆欲しい素材が見つからない，足りない時は，他にどんな素材が使えるかを一緒に考え，幼児自身で考えさせたり，工夫させたりする。 ☆ごっこ遊びをしている幼児の中に教師も入り，さらに活動を楽しむ素材やツールに気づかせ，つくる意欲を高める。
11:15	○自分のつくったものを発表する	<ul style="list-style-type: none"> ☆幼児一人ひとりの工夫を取り上げ，良さを認めていく。 ☆発表の際には，言葉が足りない部分を教師が補足し，幼児の思いや考えを友達に伝えられるようにする。 ☆教師が「本物みたいだね」「この工夫はすごい。よく考えたね」と具体的に作品を紹介し，いろいろな発想に興味関心を持たせる。
11:25	○片付けをする <ul style="list-style-type: none"> ・道具の片付け方を確認し，安全に片付ける ・使った素材の片付けを行う 	<ul style="list-style-type: none"> □最初に道具を片付けて安全性を確認した上で，保育室の片付けを行う。 □素材は種類ごとに片付ける。つくった作品は，廊下に配置したテーブルやロッカーの上に置く。 ☆素材がまだ使えるか，使えないかも自分たちで考えさせるよう声かけをし，大事に使うことも知らせる。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 幼児一人ひとりが，自分なりのイメージを持ちながら活動していたか。 ◎ 友達や教師とのやりとりの中で，自分の考えや思いが広がり，つくる意欲が高まったか。 	

④ 環境構成図



⑤ 具体的な援助について

ア 保育室全体として

- ・ 幼児の動線に配慮し、製作コーナー、段ボールコーナー、ままごとを使ったごっこ遊びコーナー、動的なごっこ遊びコーナーの4つに区分。
- ・ それぞれの活動が遊び込めるように、かつ他のコーナーに行きやすいようにする。

イ 製作コーナー

- ・ 各テーブルには、セロハンテープを2つずつ配置しておく。
- ・ 素材を種類ごとに色分けし、欲しい素材がすぐ見つけられるよう配慮する。

ウ ままごとコーナー

- ・ ままごとを使ったごっこ遊びコーナーには、財布やお金等を少量用意し、お店屋さんへのきかけをつくる。折り紙コーナーには財布の作り方等を提示し、さらにつくる活動へと誘うようにする。また、大型積み木と組み合わせながら遊べるようにする。

エ ウッドデッキ

- ・ つくったものを身につけながら動的なごっこ遊びが展開されるようであれば、ウッドデッキを使うことを促す。ただし、目が届きにくい場所なので、安全面には十分に注意する。
- ・ ウッドデッキのコーナーは場合によっては巧技台を使って舞台等をつくり、ファッションショーやダンス等ができるよう、これまでの幼児の遊びの様子を見ながら柔軟に対応する。

オ 段ボールコーナー

- ・ 段ボールを使い大きな作品が作れるよう、広めに空間を取る。
- ・ 段ボールカッターは使い方を事前に確認し、安全に使えるよう、持ったまま歩かない等の約束をカッターを置く場所に張り出し、使い方を十分に知らせる。

カ 作品展示コーナー

- ・活動後には、つくったものを友達に紹介し、工夫したところや頑張ったところ等を伝え認められることで、自己肯定感が得られるようにする。
- ・ロッカーの上や廊下を使い、幼児が互いの作品を見合える環境を構成する。作品を展示する際、作品名や頑張ったことを一言教師が添えて展示することで、自己肯定感や満足感が得られるよう、また見た側は「こんなところを頑張ったのか」とその幼児なりの工夫を感じられるようにする。

(6) 本時後の活動及び幼児の姿

① 1月8日(水)～15日(木)【実践7, 8】「お店屋さんで遊ぼう」

【活動内容】

- ・一緒につくりたい仲間を決め、相談しながら友達と共につくる活動を楽しむ。

【幼児の姿】

- ・「これをつくろう!」という明確なイメージを持ちながら友達と一緒に活動している。これまでの素材とのかかわりの経験を生かしながらつくる姿が見られる(図3)。
- ・教師が財布を持っている姿を見て「そうだ!お金をつくらなきゃ!」と、教師をモデルとして友達と一緒につくる活動を展開していく姿が見られた(図4)。
- ・グループは「ゲームセンター」「UFO キャッチャー」「クッションとネックレス屋さん」「くじ引き屋さん」「コロコロ迷路」の5つ。それぞれお店の外観も考えている。



図3 「これをつくろう!」



図4 教師をモデルとして

② 1月16日(金)【実践9】「お店屋さんをしよう!」

【活動内容】

- ・お店屋さんごっこをして遊ぶ

【幼児の姿】

- ・自分のお店を紹介したり、友達のお店に行ってみたり楽しんでいる姿が見られる。
- ・「これどうやってつくったの?」と、友達がつくったものに興味関心を持っている(図5)。
- ・お客さんを呼び込むためのマイクやメガホン等、お店屋さんをしている最中でもつくる活動が広がっていき、幼児が夢中になっている姿が見られた。
- ・他のクラスの幼児も遊びに来た。「これはどうやるの?」「これはね…」と幼児同士でかかわりながら楽しんでいる。「商品が足りなくなっちゃ!」と嬉しそうにつくる姿が見られたり、他のクラスの幼児への刺激となったりした(図6)。



図5 どうやってつくったの?



図6 他のクラスも交えて

Ⅷ 研究の考察

1 作業仮説1の検証

素材にじっくり時間をかけて触れ遊び親しむことで、自分なりに使い方や特性を知り、イメージを形に出来る楽しさを感じるであろう。

(1) 手だて

- ① 豊富な素材を用意，分類し，幼児が素材に触れながら遊べるようにし，イメージが豊かになるような環境を構成していた。
- ② 身近にある素材の特性や，それらを使った遊びの展開を予想しまとめた。

(2) 結果

- ① 豊富な素材を準備し，遊びやすいように分類したことで，幼児が使う素材の種類が多くなった（図7）。

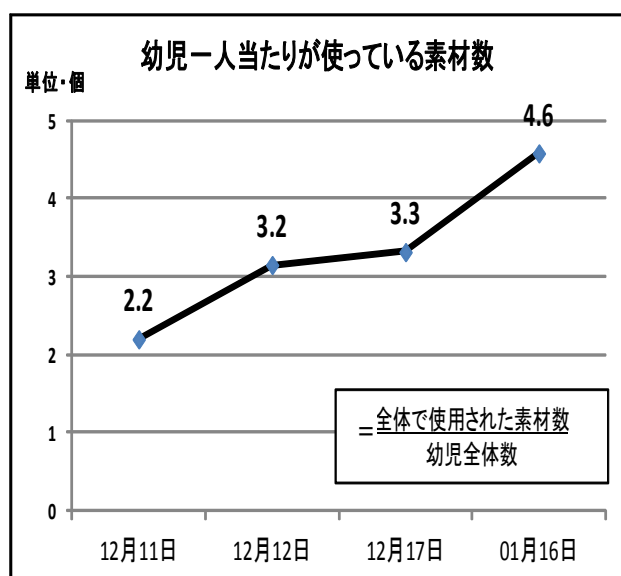


図7 幼児一人当たりが使っている素材数

また，素材を「容器類」「紐類」「紙類」「日用品類」に分類し，見てすぐ分かるように素材の絵を貼ったり，素材を入れる箱を色分けしたりしたことで，幼児が視覚を頼りながら，自分が使いたい素材を探す手がかりとすることができた。

また，同じ種類の素材を一箇所に集めたことで，新たな素材との出会いにも繋がった（図8）。

沢山の素材の中から，使いたい素材を色を目安にして探す。同じ種類の素材が集まっているので，探す内に「これの方が良いかも」という場面もあった。



図8 素材を分類，色別で配置する

様々な素材を準備し，親しめるような環境をつくったり，時間を確保したりしたことで，幼児の発想を促し，素材の組み合わせを楽しんでいる姿が見られた（図9）。

たこ糸にモールを付けて，ビュンビュンごまをつくった。教師には思いも付かない組み合わせを，自分で考えている。



色画用紙を使った財布に，布を巻いたりビーズで飾ったりしている。まるで本物の財布のような仕上がりがりとなった。



図9 様々な素材を組み合わせる

様々な素材を組み合わせながらつくるようになったことで，作品にも変化が見られた（図10）。

「これをつくろう」「あれを使いたい」と，つくりたいものや使いたい素材，道具等を明確に思い浮かべながら，自分なりのイメージを持ってつくる活動に取り組む姿が見られた。

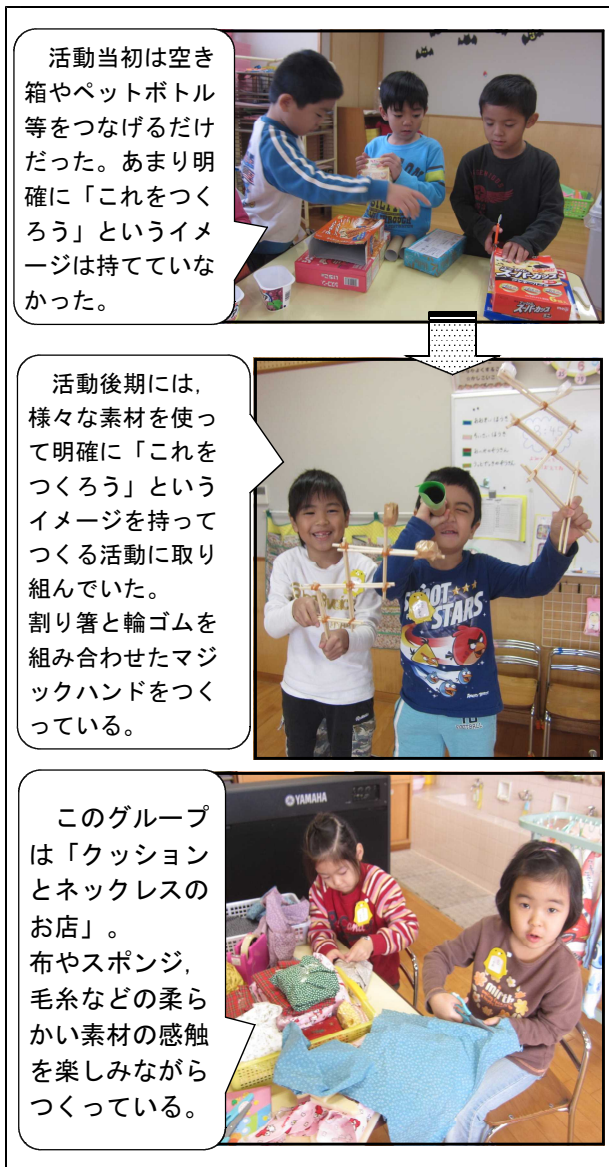


図10 幼児の作品の変化

② 素材の特性や、それらを使ってどのような遊びができるかまとめたことで、幼児の行動を事前に予測することができた。活動の準備をすることができただけでなく、その展開においても、「こういうものがあるよ」と提案することができた。

しかし、予測とは違う、幼児なりの考えで行動した時に、考えを広げたり深めたりするような援助が難しい。そのような場面において、その一瞬の声かけは大事だと考える。そのためにも、教材研究を深め、幼児と素材の関係をより理解していく必要がある。

(3) 考察

素材を豊富に準備することで、イメージを引き出すきっかけとなった。素材に親しむ中で、徐々に「こうしたい」「あれをつくろう」と発想を広げていく姿が見られた。素材の感触を楽しんだり、様々な素材を組み合わせたりと、一人ひとりが工夫しながらつくる活動を行うことができた。以上のことから、本仮説が有効であったと考えられる。

しかし、今回素材は多く準備できたが、それらが多すぎたり、興味関心と外れていたりしたことで使われにくい素材もあった。また逆に、新しい素材に興味関心が集中してしまい、遊び込みの面で不十分な部分もあった。

一気に多くの素材に触れるのではなく、段階を踏まえ少しずつ数を増やしたり、幼児の興味関心に沿って精選したりすることも必要である。園生活後期にはそれらの素材を使い、自由に発想しながらつくる活動が活発になるよう配慮していくことが望まれる。

2 作業仮説2の検証

幼児同士や教師とかわりながら、表現を伝え合ったり、共に作り上げたりする過程を大切にすることで、幼児のつくる活動への意欲が高まるであろう。

(1) 手だて

- ① 幼児の発想を広げるような応答的な教師のかかわりや、教師が仲介となり幼児同士の遊びをつなげる援助を行った。
- ② 作品を展示して刺激となるように環境を構成した。
- ③ つくったものから、さらに遊びが広がるような環境構成の工夫を行った。

(2) 結果

- ① アンケート結果から、活動以前に比べつくる活動への意欲が高まっている傾向が見られた(図11)。

また、検証後の幼児の声からも、つくる意欲が高まった様子が見られた(表6)。

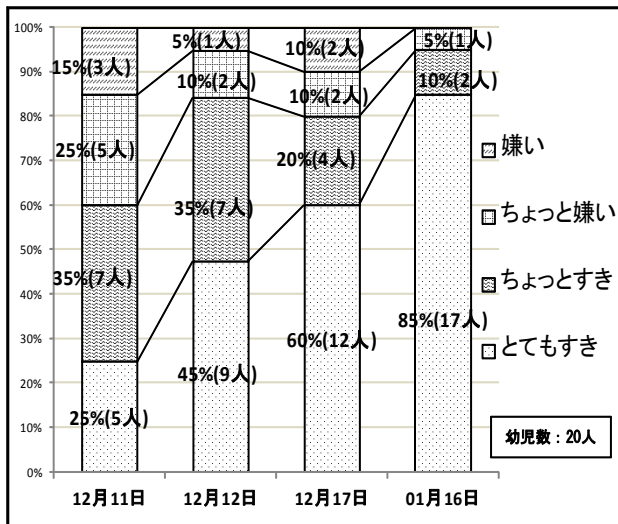


図11 「あなたは新聞紙や空き箱等で作って遊ぶことが好きですか」

表6 検証後の幼児の声

【幼児の声】

- ・いろいろなものがあって、いっぱい遊んだからつくるのが好きになった。
- ・段ボールで、大きなお家をつくったのが楽しかった。
- ・お店屋さんごっこをやって、お客さんが沢山来てくれて嬉しかった。私がつくったものを気に入ってくれていた。

教師とのかかわりの中で、応答的な声かけに答え、幼児が自分なりに考えながらつくろうとする意欲が見られた。

また、教師の援助で活動が容易になり、つくる意欲が高まっていく姿も見られた (図12)。

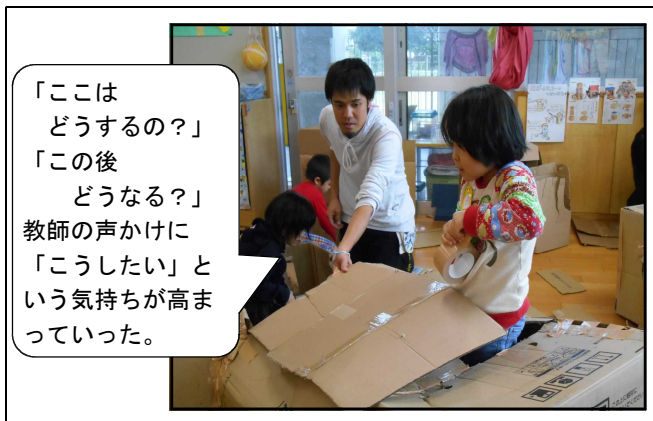


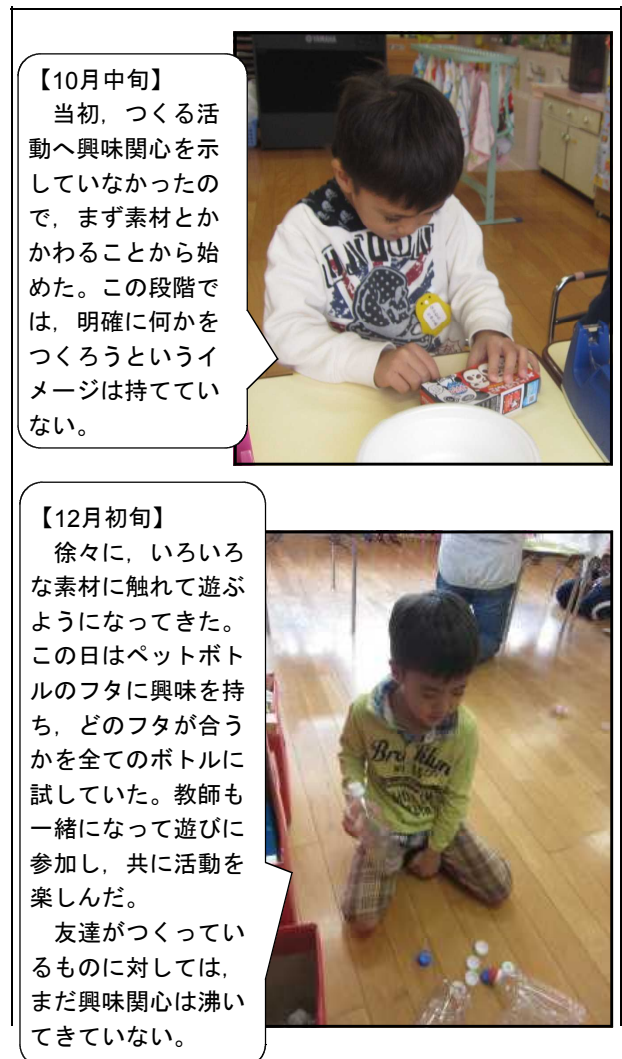
図12 教師とのかかわりを通して

友達とのやりとりの中で、教師が仲立ちとなりそれぞれの思いや考えを伝えたり、幼児が行っている活動を認めたりすることで、つくる活動への意欲が高まってきた (図13)。



図13 友達と一緒につくる

つくる活動に興味関心を示さなかったR男が、教師や友達とのかかわりを通して素材に親しみ、つくる活動への意欲や興味関心が高まっていく姿が見られた (図14)。



【12月中旬】

いくつかの素材を組み合わせて、つくる活動をし始める。「何つくっているの？」と声をかけると「わからん！」と言って活動を止めることがあるので、傍にいて見守りながら、困っている時に声をかけるようにする。

友達の活動に、徐々に興味を持ち始めている。



【1月初旬】

友達の作品を見て、空き箱を使った迷路を作り始める。明確に作りたもののイメージを持ち始める。「ここはこうしたいから、どうすればいいか」と自分がやりたいこと、その課題を教師に相談する姿も見られるようになってきた。



【1月中旬】

友達と一緒に「迷路屋さん」に取り組んだ。友達の迷路を見ながら改良を加えていく姿がある。



図14 つくる活動におけるR男の変容

② 作品を展示することで、つくった幼児は達成感を得て自信に繋がった。作品を見た他児には刺激となって同じものをつくる姿が見られた(図15)。

幼児のつくったものを、保育室前のスペースに展示した。登園した時に必ず目がとまる場所に設置し、みんなが見られるようにする。



図15 幼児の作品の展示

③ 牛乳パックを使った窓や劇舞台、大型積み木等、つくったもので遊びが広がるような環境を構成したことで、それらを使いながらままごとやお店屋さんごっこ等の遊びが広がった(図16)。

しかし、ままごとコーナーには当初からの皿や道具を置いてしまっていたため、そのままそれらを使って遊んでしまい、つくる活動を促すものとはならなかった。

窓枠に看板を貼り、お店の入り口となった。その後、段ボールで店員の休憩場所、お客さんが入れる場所等、イメージを広げながら遊びを進めている。



図16 牛乳パックの窓がお店の入り口になった

(3) 考察

つくる意欲を高める手だてとして、教師の声かけ、特に応答的な声かけに大きな効果があった。また、友達とのかかわりにおいては、教師は時に見守ったり、援助したりしたことで、幼児同士がそれぞれの作品を見比べたり、「ここはこうしたら良い」とアドバイスしたりする姿が見られた。互いに刺激し合いながらつくる活動が活発化する様子が見られる等、本仮説が有効であった。

作品展示により友達の刺激を受けながらつくる活動が活発化された一方、それら作品が遊びに使われなかった。展示の期間やその方法を考慮する必要がある。

遊びが広がる環境として、お家ごっこやお店屋さんごっこに発展し、そこでさらにつくる活動が行われる等、効果が得られた。今後、さらに環境を見直しながら、年間の活動(室内での遊び、戸外での遊び、季節、行事等)とつくる活動の関係をより深く考えていくことが必要であると考える。

Ⅸ 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 素材を豊富に準備し遊び込んだことで、幼児が様々な素材を使いながら自らのイメージを表現するようになった。
- (2) 友達や教師と一緒につくる活動を行ったことで、幼児のつくる活動への興味関心、意欲が高まった。
- (3) 様々な素材の特性や予想される遊びをまとめたことで、幼児の行動を予測でき、教師自身も「こんな遊びができる」と幼児に提案する際の指標となった。

2 課題

- (1) 幼児の興味関心や発達段階に沿った素材の研究を深めていきたい。
- (2) つくる活動を取り巻く環境構成をより工夫し、内的循環を促すようにしていきたい。
- (3) つくる活動の年間指導計画を立案し、発達段階に即したつくる活動の実施を考えていきたい。

おわりに

幼児期における造形表現活動とは、いったいどういう意味を持つのか。それが活発に行われるには、どのような援助が必要になるのか。この疑問

と、自らの今までの保育を省みながら、本研究を進めてきました。

研究を通して、様々な素材の持つ意味、その特性、そして幼児の遊ぶ姿までを深く考えたり、友達のいる意味、教師のいる意味を考えたり等、多くのことを学ばせて頂きました。

幼児が多くの素材に触れ、そこから自分なりのイメージを浮かべながら素材と積極的に遊ぶ姿はとても生き生きとしていて、「こんな発想をするんだ!」と、私自身が驚きの連続であり、またそれだけ創造力を持つ幼児の力に感動しました。

この半年間の研究で学んだ理論や実践を、今後の保育に生かし、さらに幼児の造形活動が深まっていくよう、研究を深めていきたいと思えます。

研究期間中、多くのご指導を頂きました知名道博所長、山里崇係長、日高聡指導主事、浦添市教育委員会の平田輝代美指導主事、崎原聖子指導主事、内間幼稚園の友利愛子副園長に深く感謝申し上げます。

最後に、この研究の機会を下さり、快く送り出して下さいました牧港幼稚園の仲底善章園長をはじめ、いつも暖かく励まして下さった先生方、半年間共に支え合ってきた研究員の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

【主な参考・引用文献】

- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------|---|-------|
| ・最新保育講座 11 保育内容「表現」 | 平田 智久等 | ミネルヴァ書房 | 2010年 |
| ・幼稚園教育要領解説 | 文部科学省 | フレーベル館 | 2008年 |
| ・ここが変わった! New 幼稚園教育要領・保育所保育指針ガイドブック | 無藤 隆等 | フレーベル館 | 2008年 |
| ・新 保育ライブラリ 保育内容 表現 | 花原 幹夫等 | 北大路書房 | 2009年 |
| ・新 保育ライブラリ 保育内容 環境 | 小田 豊等 | 北大路書房 | 2009年 |
| ・絵画表現と材料・用具の世界 | 岡田 愨吾 | サクラクレバス出版部 | 2009年 |
| ・幼児造形教育の基礎知識 | 花篤 實等 | 建帛社 | 1999年 |
| ・いっしょに考えよう 図工のABC | 佐々木 秀樹 | 日本文教出版 | 2012年 |
| ・幼児期から児童期への教育 | 国立教育政策研究所教育課程研究センター | ひかりのくに株式会社 | 2005年 |
| ・kid's art labo 幼児造形表現教育研究 | | http://www.eonet.ne.jp/~isa-o/kal/kalindex.htm | |
| ・平成20年度 中央教育審議会答申 | | | |

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/11/29/20080117.pdf